小石川消防団 広報紙
纏 MATOI
第63号
監修／小石川消防署　編集・発行／小石川消防団広報委員会
令和2年4月30日発行

主な出来事（令和2年1月～4月）

- ◆東京消防出初式参加（1/6）
- ◆消防団員街頭一斉募集（1/16）
- ◆小石川消防団始式（1/19）
- ◆文化財防火デー消防演習参加（1/24）
- ◆節分会消防特別警戒（2/2,3）
- ◆第五方面内消防団幹部研修会（2/18）
- ◆防災コンクール支援（中止）
- ◆春の火災予防運動に伴う警戒（3/1～7）
- ◆春の火災予防運動に伴う消防演習参加（中止）
- ◆区内桜まつり消防特別警戒（中止）

小石川消防団始式を挙行

1月19日㈰、文京シビックホール小ホールにて、年頭の恒例行事である小石川消防団始式を挙行しました。

新元号初となった今年の始式、まずは日頃の消防団活動において特に功績のあった団員や、長年にわたり団員を支えてこられたご家族に対し、文京区長表彰や消防総監表彰、消防署長表彰、消防団長表彰などが授与され、続いて成澤文京区長や消防総監（代理・小野第五消防方面本部長）をはじめ、ご臨席の皆様から新年のご挨拶とご祝辞を賜りました。また、昨年中に入団した新入団員が紹介され、一同を代表して第2分団の須貝団員が力強く決意表明を行うと、会場は期待と応援の拍手に包まれました。

髙柳小石川消防団長の謝辞の後、川原小石川消防署長から、団員の規律厳正にして士気旺盛な姿に対して格別なるご高評をいただきましたが、小石川消防団はその評価に恥じぬよう、年頭の決意も新たに、火災はもとより大規模な被害をもたらす自然災害から地域の安心・安全を守るため、一致団結して一層精進してまいります。

消防団員意見発表会に出場

2月9日㈰、東京消防庁消防学校にて、第34回消防団員意見発表会が行われ、第五消防方面（文京区・豊島区・北区）の代表として出場した第3分団の菊岡里美団員が「土地っこ消防団員を目指して」と題して発表を行いました。

この発表会は、消防団の活性化を図るために開催されるもので、各方面の代表12名は、消防団に関する意見や体験談などを熱く語りました。

僅差で最優秀賞こそ逃したものの、優秀賞を受賞した菊岡団員は「地域の方々に支えられているという発表のとおり、消防団の仲間たちによる大応援団で当日も支援していただきました。この感謝を、地域にお返しできるよう頑張ります！」と、感想を語っていました。これらの熱い思いが、今後の消防団活動のさらなる活性化につながることでしょう。

春の火災予防運動に伴う警戒を実施

3月1日㈰から7日㈯まで、春の火災予防運動の一環として、可搬ポンプ積載車による巡行警戒を行いました。

小石川管内ではここ数年、火災件数や焼損床面積等の損害状況は減少傾向で推移していましたが、昨年12月には6年10か月ぶりに火災による死者が発生してしまい、千石地区では今年に入り不審火が複数件発生していました。

夜間にゴミなどの燃やされやすいものを路上に放置したり、火の始末を怠ったりしないよう、地域ぐるみで出火防止に取り組みましょう。

新型コロナウイルスに伴い各種行事が中止に

パンデミック（世界的大流行）にまで発展している新型コロナウイルスの感染拡大を防ぐため、2月以降に予定されていた消防・防災関連の行事や催しが中止を余儀なくされました。

中止となったものは、第44回小石川地区防災コンクールをはじめ、春の火災予防運動に伴う消防演習や総合防災訓練、お花見等の警戒や各種救命講習などです。5月24日㈰に開催予定だった小石川消防団消防操法大会や大会に向けた各分団の訓練も中止が決定しました。

健康と安全を最優先に考慮してのやむを得ぬ措置ではありますが、とはいえ災害は決して待ってはくれません。ウイルスへの感染予防と共に、防火・防災への意識も、より一層高めてまいりましょう。